

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.76 2016 年 10 月 22 日発行
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

第 19 回文化の仲間定期総会と特別企画「たまこ&ちづる」コンサート

20 年目の定期総会と、記念のコンサートを行いました

1996 年の結成から 20 年目を迎え、第 19 回定期総会を開催しました。また、20 周年記念ということで、「たまこ&ちづるコンサート」を開催しました。総会の報告と、コンサートの感想などを寄せていただきました。

貴重な意見を生かして

文化の仲間・事務局 山木 健介

「京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間」は 1996 年 9 月 1 日に発足の集いを開催してから今年で 20 年目を迎えました。開催しなかった年もあるので今年では第 19 回総会になります。総会は 9 月 25 日(日)にスペース京浜(京浜協同劇団稽古場)で開催しました。

総会後には 20 周年記念企画として「たまこ&ちづるコンサート」を開催しました。文化の仲間の会員であった歌手の故たつの素子さんが期待をかけていた 2 人に、たつの素子さんと安達元彦さんの歌・曲を中心に演奏・歌ってもらいました(別項の記事をご覧ください)。

総会には、文化の仲間の会員と劇団員が出席しました。総会の時間は短時間でしたが多くの意見が出されました。主な発言を箇条書き的に紹介します。

- ・(8 月 15 日に劇団の屋上で開催した花火納涼会に近所のおばあちゃんとお孫さん 2 人が来てくれましたと経過報告しましたら)花火に近所の人に来てくれたのはすばらしい。いいきっかけが出来たのではないかな。
- ・花火納涼会で、近所に声をかけると来てくれる人もいます。会費を取るのは無理だけど。
- ・会計報告を見て、16 万 6 千円で活動しているのだから、3600 円でも数が集まるとすごいなと思った。
- ・機関紙(会報)を軸にした活動がすばらしい。
- ・外部の人にも記事を書いてもらっていて、胸を打たれた記事があった。
- ・会員のお便りのコーナーを入れて、会員の声を返してあげるよという会員どうしの交流があっても良いの

ではないか。

- ・公演が終わった後の感想の記事があるが、文化の仲間の社説みたいに、個人署名でいいけれど、主張があるとおもしろいな。
- ・文化の仲間から「こんな芝居をやってよ」というのがあっても。
- ・会員拡大で、具体的にあと 1 年間で 10 人増やそうよとか提案した方が良いのでは。
- ・会員拡大も劇団と連携して行っては。
- ・川崎文化会議に幹事を出しているのだから、報告を世話人会でやった方が良い。

などの意見が出されました。すべて貴重なご意見なので、実現可能なところから実行していきます。

また、総会とコンサートの終了後の交流会で、「歌手のたまこさんが蚊取り線香の煙でむせていた。コンサートでは煙の出る蚊取り線香はダメ」と意見されました。そのとおりです。反省して今後に生かします。

総会で新年度の役員(世話人)が以下のとおり選出されました。(敬称略)

二村 柊子・高橋明義・藤崎秀子(以上代表) 山木健介・須田セツ子・西川日女子(以上事務局) 小野寺晃・佐藤友吉・常名孝央・橋本教善の 10 名です。

1 年間よろしくお願ひします。



いろいろな意見が出されました

運命的な出会いだった 2 人

秋山 ちづる

昨秋の「安達元彦の音楽会」に、「たまこ&ちづる」として一部出演した時は、まさか 1 年後に、自分たちのコンサートをすることになるなんて、思ってもいませんでした。

たまちゃんと初めて出会ったのは、今からちょうど 4 年前のこと。たつの素子さんの引き合わせでした。お互い何だかよくわからないまま、その 1 ヶ月後のたつのさん主催のコンサートで共演することになり、それを機に、私たち 2 人の関わり合いもスタートしました。

その後、自分の病気と「余命 1 年」というお医者さんからの宣告を、覚悟を持って受け入れたたつのさんが、「次につづく若い世代の音楽家を育てたい」と、安達元彦さんとのコンサートに、たまちゃんと私を同行してくださり、私たち 2 人は半年間ほど現場修行をすることになったのです。そんないきさつでしたので、4 人で一緒に本番に向けて創り合う時間は楽しく幸せで、今となっては何にも代えがたい宝物のような時間ではありましたが、一方では、かなり切羽つまった精神状態でもありました。とにかく、ジェットコースターのような勢いで走り出したたつのさんに、何とかついていこうと、それだけで必死だったのです。

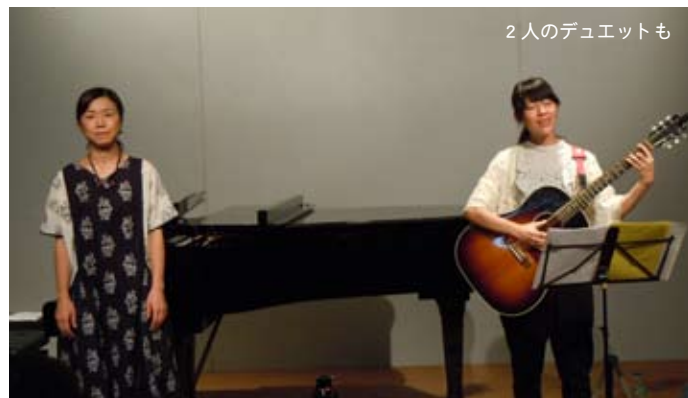
たまちゃんと私は、ひとまわり年齢も違いますが(私の方がオバサン!)、これまで生きてきた道のりも全く違います。たつのさんの引き合わせ(特にあのタイミングでの)がなければ、決して一緒に継続的な演奏活動をするなどなかつたらしくと確信を持って言うことができます。だからこそ逆にいえば、運命的な出会いだったと思うのです。

「たつのさんはなぜ、私とたまちゃんを組み合わせただろう？」というギモンは、たつのさん亡き後も

たまちゃんとの演奏活動を続ける中で、「私とたまちゃんそれぞれに、一体なにを望んでいたのだろうか？」という問いかけになり、それはまた同時に、「私自身は、たまちゃん自身は、一体これからどうやって行きたい(生きたい)のだろうか？」という、自分たちの人生をかけた問いかけにもなっているのです。

そういう中で頂いた、今回のコンサート出演のお話でした。文化の仲間の方たちとの事前打合せの際に、「たつのさん・安達さんの後継者」として、完成度の高いものを期待されるお気持ちを感じましたが、それと現在の自分たちとの実態にひらきがあることは自分たちが一番よくわかっていますので、不安は大きくなりました。

しかし、本番を終えて一番感じたことは、文化の仲間の皆さんや、コンサートを聴いてくださった方々が、私たちの不完全さをも含めて丸ごと受けとめてくださったということでした。張りつめていたものがゆるゆると弛むと同時に、まだもう少しがんばれそうな気持ちも湧いてきました。



今回のコンサートの実現へ向けて、惜しみなく動き回ってくださった文化の仲間、京浜協同劇団の皆さん、そして当日聴きにきてくださった方々、それから、この 4 年間、未熟な 2 人のすぐそばにいて、あたたかく見守り続けてきてくださった安達元彦さんに、心からのお礼を送りたいと思います。こんな私たちですが、これからも関わりを持ちつづけて頂けたらうれしいですし、そうなるように私も努力したいと思います。ありがとうございました！



あの日、音楽の泉が湧きました

岡本 明男

「♪来たことのない街にきて、♪来たことのあるような気がして」と歌う「めぐりあい」は、私だけではないと思いますが、きっと若い人の特権なのかな、というのは、このごろは殆どないからです。だし巻き卵とチーズケーキの看板を前にして、たまこ&ちづるコンサートは、人への温かみがこもってました。

たつの素子さんのことは、私は知りませんが、この2人を通じて少しわかったような気がしました。「♪今精いっぱい」は幼子をかかえての、たま子さんその



アカペラのデュエット

ものを歌っていました。♪お母さんのうたは「母の胸で抱かれ聞いたあの歌は今も心に染みる風が空をかける鳥のさえずりが…」とモンゴルの草原に吹きわたる風の匂いが2人の間から聞こえてきました。♪愛哥は、(人から)愛されるより、(人を)愛するひとに育ててほしいと、素子さんがつくったとか…。愛情の深いひとだとわかります。

ちづるさんが歌った多摩の民謡は、これを歌った作業の風景がいまはないのでその意味では大変むつかしい歌だと思います。よく歌っていたと思います。酒造りの歌は別にして、父と母の農作業を手伝ったことのある私は少しその情景が浮かびました。一つのフレーズの中に農作業があるんだと思います。ちづるさんの、自分の根っこを感じる演奏をしたいの言葉が心に残りました。

ピアノ演奏は、不思議なことです、海の豊穡と山や川からの恵みに感謝する生まれ故郷の人々の姿と、天変地異に嘆く人たちの姿が見えました。冬のある大しげ時化の日に、はたはたを満載した漁船が港の入り口で転覆して、男たちが大勢帰ってこなかったことを、話してくれた母の姿が。

アカペラの♪彼岸花と♪ホラ寝ろねんねろは、福島原子力発電所事件をするどく告発する、♪歩いても歩



アンコールは「文化の仲間の歌」

いても、に続く…。少年のころから科学好きな私は、原発は危険と知っていてもただ一回も、その声をあげなかった。その分余計に胸に突き刺さりました。

♪ルア・ヒロシマは、ドイツ平和村を訴えている。少し前に民放のあるチャンネルで、俳優の東ちづるがドイツ平和村を訪ねた番組がありました。ここで傷をいやした子どもたちは、アンゴラ、アフガン、アルメニア、カンボジアの故国に帰っていくが、そこでは平和が実現しているか…。ヒロシマのある国にすんでいる私たちの責任は…。

♪少年よ、は6歳になる愛する息子に思いを寄せている彼女にピッタリはまって素晴らしい歌でした。この子が大人になるころこの国は…。…だから私は歌う。

♪人生よ、ありがとうございます、私の歌でもあります。一女の結婚式で歌いました。

心の中から湧きあげるうたこそ本当の歌だと思います。歌はうたうと空間にしみこんでしまい、その直後に無くなってしまいます。でもその思いは人に伝わると、その人の心に住みつきます。傷ついた人の心を癒し、迷っている人を励まし、楽しい場を楽しく、悲しい場所でもやさしく心にささやくことができます。

国や企業の不当と闘っている人の心を鼓舞し、社屋の中で身を潜めている敵側の心に忍び込み、人間としての振舞いを呼びかける力を持っていると確信します。でも本当に必要な人たちの所にはまだ届けることが出来ていません。あの日、香り高い音楽の泉が京浜協同劇団稽古場に湧きました。(文化の仲間会員)



終了後の交流会で感想を出し合いました

前号 (No.75) で特集した「かわさき演劇まつり」で舞台美術を担当された小池れいさんに、「ブンナよ木からおりてこい」を例に、舞台美術の仕事について伺いました。

「ブンナよ木からおりてこい」 の美術ができるまで

小池 れい

こんにちは。舞台美術の小池れいです。このたび、かわさき演劇まつりの「ブンナよ木からおりてこい」の美術を担当させていただきました。

私は川崎生まれで、今も川崎市内に住んでおりますが、川崎を拠点とする劇団の方々とお仕事するのは、二十数年舞台の仕事をしている中で初めてで大変光栄で嬉しく思います。

今回の「ブンナ〜」の舞台美術ができるまでを書いていきたいと思いますが、その前に私の経歴をざっとご紹介したいと思います。私は1993年に桑沢デザイン研究所という専門学校を卒業しました。高校生の時から舞台を観るのが好きで、当時からファンであった某劇団の舞台美術をしたいと思っておりました。そして、20歳の時にその劇団の入社試験を受けましたが、見事不合格でした。しかし、舞台美術をあきらめきれずになんとか舞台美術の仕事がしたいと思い、学校の創設者であり日本を代表する舞台美術家、朝倉撰先生のもとへ弟子入りしました。

今では徒弟制度がなくなりつつありますが、当時の

舞台美術家への近道は弟子入りが主流でした。写真家の父と共に朝倉先生のアトリエへ弟子入りのお願いに伺った際、「一人前になるまで大変だからやめた方がいい。」という返事でしたが、若かった私は後先考えず「やりたい！」という一心で朝倉先生に弟子入りしました。

弟子入りを反対するどころか、一緒に先生のもとに出向いてくれた父、この仕事をするのに賛成してくれた両親にはとても感謝しております。

朝倉先生は、古典・ミュージカル・舞踊などさまざまなジャンルの舞台美術をしていました。美術助手をしていた私は色々な舞台に携われて、素晴らしいスタッフの方々とお仕事をする機会にも恵まれました。先生のアトリエは資料の本が沢山ありインターネットもなかった当時、とても恵まれた環境で仕事することができました。助手時代の経験や人脈は今でも私の財産となっております。

「ブンナ〜」の美術は、演出家の小山さんとの打ち合わせをもとに舞台真ん中に大きな切り株をイメージした円形の台、その上に高い幹が天に向かって生えているというデザインの方向でプランは進んでいきました。子ども向けの舞台ということもあるので、手作り感のある温かい舞台美術にしたいと思ってデザインをしました。温もりや愛は形には見えませんが、みんなで作ったこの舞台は、そういう気持ちが観客の皆様にきっと伝わったと思います。

最近の舞台装置製作は道具を作る場所もないため、大道具会社に発注してしまうことがほとんどなのです



幹の試作（新聞紙をもんでボンドで貼り付け、その上から着色する。）

下地に新聞紙をつける。



着色する。



ネットに葉っぱを縫いつける。

が、今回の大道具は参加者と劇団の皆さんで作るので誰にでも作りやすく、なおかつそれらしく見せるということが大道具製作のポイントでした。舞台の上を飾る葉っぱは、手作りの雰囲気を出したかったので、皆さんで葉っぱの形に切った布をネットに縫いつけて、手作り感を表現しました。

幹の凹凸感など、簡単な手法で表現できないかと、普段お世話になっている背景さんにテクニックを聞きに



葉っぱのバランスを調整する。

いって、試作と一緒に作ってもらったりしました。本来、大道具の技術は職人さんのテリトリーで企業秘密かも？ですが、とても親切に教えてくださり、本当にありがたいことでした。

舞台の仕事は大変なことも多数ありますが、芝居が好きだということと、舞台は一人一人が力をあわせて一つになる総合芸術ですので、人と人とのつながりが必ず良い舞台を生むのではないかと考えております。

花火納涼会、来年はぜひ皆さん参加してみませんか

橋本 恵美子

東京都大田区平和都市宣言記念事業の「花火」が8月15日(月)19:30から40分間、多摩川河川敷で打ち上げられました。毎年この花火を京浜協同劇団の屋上で鑑賞しているというので、今年初めて参加させてもらいました。

今回は文化の仲間、劇団員等20名の参加がありました。焼き鳥に煮物、おそば、おにぎりなど、西海亭の須田さんのお料理が盛りだくさんで、花火が打ち上がる前から大盛り上がりでした。

不安定な空模様でしたが、幸いにも花火が上がっている間は雨は降らず、多摩川からの風も心地よく、きれいな花火を堪能させていただきました。朝早く

から準備に奮闘された皆さん、ありがとうございました。とても楽しかったです。来年も参加したいと思います。ぜひ皆さんも参加してみませんか？

(文化の仲間会員)



調理チームも交代で



交流が盛り上がりました。



「戦後 70 年を機に、自分史を振り返る」・その 6

—処女作「豚の飼い方」とオペラ「夕鶴」—

小田 健也

前号までに、私が芝居の勉強を始めるまでの時期について書いてきたが、この後は膨大な記録になるので、必要とあれば、拙著『オペラはこうして演出される』（現代芸術社刊）を参照していただくことにして、私の初めての劇作と、オペラ演出の原点ともいえるオペラ「夕鶴」について触れることにする。

昭和 38 年（1963 年）、当時の労働組合連合体・総評の文化使節団として、「朗読と歌と音楽による構成劇」を創作して、当時のソ連の都市 10ヶ所と、東ドイツのベルリンなどを、1ヶ月半にわたって公演したが、その途中、ブレヒトのホーム・シアターである〈ベルリーナアンサンブル〉を訪れ、「第二次大戦中のシュベイク」を観る機会を得た。これが一つの刺激となって、2年後の昭和 40 年、私の初めての創作劇「豚の飼い方」を執筆、俳優座劇場で公演した。そしてさらに2年後、ベルリンで観た「第二次大戦中のシュベイク」を本邦、初演した。

○初めて、自作の戯曲「豚の飼い方」（1965 年）

私が書いた初めての創作劇「豚の飼い方」は、伊豆七島の一つ、新島を舞台にした芝居である。この島に「射爆場」ができるという問題が起こり、反対運動が起きるのだが、その過程で、島民は反対派と賛成派に分かれて対立する。芝居はその闘争を描きながら、「島」という限られた中での、島民の濃い血の繋がりが逆に、激しい人間関係を生み出していくといった問題を書いた芝居である。

こうした基地闘争が、ややもすれば持続することが難しい状況の中で、芝居の主人公は、人々の間で〈豚を飼う〉ことによって、闘争は一時的なもので終わらず、島民自身の生活を賭けた闘いへと変わっていく、といった芝居である。

私は1年がかりで島に通い、島に住む広野さんという青年と一緒に、島の公民館に寝泊まりしながら執筆した。それまで書くことはあまり得意ではなかった私にとっては、愉しみの半面、大変な苦痛でもあった。しかし戯曲を書いたことで、演出という仕事の上でも、大いに役立ったことは否めない。

○オペラ「夕鶴」は、私のオペラ演出の原点。

年代をさかのぼるが、昭和 34 年（1959 年）に、恩師である演出家の岡倉士朗先生が亡くなられ、私が先生の後を継いで、オペラ「夕鶴」の舞台を監督することになったのであるが、この時のオペラ「夕鶴」が、私にとって〈生涯の仕事〉になろうとは思ってもみなかった。

この時から数えて 50 年余、公演回数も 350 回近くのエペラ「夕鶴」公演の始まりとなったのである。そしてこのオペラの後に創られた、團伊玖磨さんのオペラ、「ちゃんちき」も演出するようになるうとは……。どこに〈きっかけやチャンス〉が待っているか、私にとってはありがたいオペラ「夕鶴」との出会いであった。

そして「夕鶴」や「ちゃんちき」のおかげで、團さん以外の作曲家、池辺晋一郎さん、宇野誠一郎さん、安達元彦さん、朝岡真木子さん、青島広志さん、富永みさをさん、尾上和彦さん、川本哲さん、上田亨さんなど、優れた作曲家ともいっしょに仕事ができる機会を得、多くのオペラやミュージカルを手掛けるようになったのは、まさに幸運という他はない。

そして、こうしたオペラのおかげで、全国多くの方とお知り合いになれ、国内ばかりでなく、中国、アメリカ、ヨーロッパなど、数多くの海外公演によって、海外にお住まいの方とも親しくお付き合いできたことは、やはりオペラ「夕鶴」が出发点であったと思う。オペラ「夕鶴」は、私にとって、記念碑的な仕事になったと云っていいだろう。



1994 年（写真：©長坂クニヒロ）

前号 (No.75) で文化の仲間会員で元劇団員の堤次郎 (本名・鈴木晃) さんの訃報をお伝えしましたが、堤さんの妹さんから劇団に手紙が届きました。堤さんの弘前での様子や劇団への思いがよくわかるお手紙でしたので、許可をいただいて掲載することにしました。

生前は、晃が大変お世話になりました。私は、妹の工藤佐津江と申します。

約60年前、私は幼くして何が何だかわからないまま、悲しい思いで鶴見に向かう兄を見送った日がついこの間の様に思い出されます。

若い頃、兄に連れられて劇団にお邪魔したこともあり、弘前の田舎とは違い、内容はどうあれ若者達が熱く語り合う姿に感動致しました。また皆様と楽しく酒を酌み交わす兄の楽しそうな顔が今でも走馬灯の様に思い出します。

そんな兄も、6月28日帰らぬ人となりました。

本人の意向もあり、弘前に戻って来ましたが、私にも家族にも仕事があり、手厚い看護もしてやれず、悔いが残ります。

皆様もご存じの通り津軽のじょっぱり (がんこ) の精神で生きてきた人なので、周りの方々とうまくやってこれたのかと、時々考える時があります。

弘前に来てからは施設にありましたが、あせるあまり無理に歩行を試みようとして、立ち上がっては転んで骨折したり……。何度も救急車の世話になりました。しかし、最後まで意識は結構しっかりしていて、川崎にもう一度行きたい、オレは劇団に泊まる、お前はホテ

ルに泊まれと……。何回か行けるまでの状態になりましたが、並行して入院することが多く、一度も行かずじまいでした。

兄にとっては、ふるさとは川崎で、第二のふるさとが弘前だったんです。晃の上の兄 (実家) も嫁と死別し、子供達も遠くへ嫁いでいるため、独り身なんです。その様な事情もあり、しばらくは私の家 (工藤の仏壇) におり、供養しています。毎日話しかけていますが、仏壇の兄は笑って何も答えてくれません。

病気になった兄は別人で、元気な写真の顔で歌をうたいながら川崎で暮らしている様な気がします。そこへ行ったら会える様な……。

この度、少しですがメロンをお送り致しました。業者さんの都合で少し日々はかかるかと思いますが皆さんでお召し上がり下さい。

一度、写真を持って劇団へ連れて行ってあげたいと思っております。

劇団の発展と皆様の健康をお祈り申し上げます。

京浜協同劇団の皆様

鈴木晃の妹 工藤佐津江

平成28年7月21日



京浜協同劇団 第90回公演

川村光夫作

山本有三作

めくらぶんど

嬰兒殺し

日程 2016年12月2日 (金) ~ 11日 (日) (開演時刻は右の表を参照)

会場 スペース京浜

入場料 大人 2,900円 シニア (70歳以上) 2,200円 ユース (30歳以下) 2,000円 学生 1,500円
予約制/受付中 チケット専用 090-4169-2637 当日券は各500円増

問合せ・申込先 京浜協同劇団

〒212-0052 川崎市幸区古市場 2-109

TEL 044-511-4951 FAX 044-533-6694

メール keihinkyoudougekidan@nifty.com

	12月	2(金)	3(土)	4(日)	9(金)	10(土)	11(日)
午前11時			○	○		○	○
午後3時			○	○		○	○
午後7時	○				○		

◎文化の仲間通信◎

◆川崎セツルメント診療所

第 21 回ふれあい健康まつり

日時 11 月 3 日午前 10 時～午後 2 時

会場 古市場第 5 公園（雨天の場合は診療所内）

地域の皆さんと一緒に作る健康づくり・まちづくりの催しです。

特設ステージイベント（和太鼓・ロコモ体操・バナナのたたき売りほか）／模擬店（カレーライス・炊き込みご飯・シフォンケーキほか）／健康チェック（血圧・血管年齢・骨密度ほか）

問合せ セツルメント診療所 044-544-1601

◆劇団蒼い群 創立 45 周年記念・第 60 回公演

朝（あした）は、七時

日程 11 月 12 日（土）午後 6 時 00 分開演

11 月 13 日（日）午後 1 時 30 分開演

会場 横須賀市青少年会館ホール

入場料 一般前売 2,000 円 中・高校生 500 円

原作 ポール・オズボーン／訳 青井陽治／演出 福本幸男／出演 別府寛隆・ひとみまさこ ほか

「エデンの東」「南太平洋」で知られるオズボーンの戯曲。古きよき時代のアメリカの仲の良い四人姉妹とその家族の人間模様を描いた作品。

問合せ 河崎 046-827-3136

◆ミュージザ川崎ホリデー・アフタヌーン・コンサート

麗しのヴァイオリン 川島成道リサイタル

日程 11 月 12 日（土）午後 1 時 30 分開演

会場 ミューザ川崎シンフォニーホール

入場料 全席指定 3,900 円 舞台後方席 2,500 円

演奏曲目 クライスラー：前奏曲とアレグロ／フランク：ヴァイオリン・ソナタ／サンサーンス：序奏とロンド・カプリチオーソ／バッハ（グノー編）：アヴェ・マリア ほか

問合せ 神奈川芸術協会 045-453-5080

◆PLAY FOR JAPAN 和太鼓でつながろう！

震災復興をめざすコンサート

日程 12 月 10 日（土）午後 3 時開演

会場 川崎市麻生市民館大ホール（小田急線・新百合ヶ丘北口より徒歩 3 分）

入場料 一般 1,500 円／小・中・高・障がい者 800 円

ゲスト 氷上太鼓（岩手県陸前高田市）

参加団体 あおぞら太鼓・大塚太鼓・おろち・川崎太鼓仲間響・きらり・きんたの会・元気組・鼓鼓・鼓打舞・宿河原華匠舞太鼓・笑鼓楽 ほか多数

震災から 5 年。復興への道はまだまです。この 5 年間の復興支援・交流の軌跡をたどり、民俗芸能・文化のすばらしさを伝え、震災復興への思いを共有します。2011 年に開催した「震災復興チャリティーコンサート」に続き、再び陸前高田の「氷上太鼓」をゲストに迎えます。

問合せ 実行委員会事務局 042-729-6441

◆奈良岡朋子特別講演会

日程 12 月 1 日（木）午後 2 時開演（3 時 30 分終演予定）

会場 ミューザ川崎市民交流室

料金 一般 3,024 円 よみうりカルチャー会員 2,700 円
定員 150 名

俳優生活 68 年の中で出会った人や作品に関するエピソードなどを交え、今まで歩んできた舞台俳優としての人生観やこれからの語ります。

問合せ・申込み よみうりカルチャー川崎センター
044-221-5590

◆劇団民藝公演 SOETSU—^{から}韓くにの白き太陽

日程 12 月 3 日（土）～18 日（日）（詳細問合せ）

会場 三越劇場

入場料 全席指定 一般 6,500 円 学生 4,000 円

夜チケット 4,500 円

作 長田育恵／演出 丹野郁弓／出演 篠田三郎・中地美佐子・日色ともゑ ほか

民芸運動の創始者として知られる柳宗悦。大正から昭和にかけて柳の朝鮮での活動と苦悩、そして、様々な矛盾のなかから掴み取った一握りの確信が、日本の民芸運動の構想へと導いていく。

問合せ 民藝 044-987-7711

三越劇場 0120-03-9354

◆日本フィルハーモニー交響楽団

第九交響曲演奏会

日程 12 月 17 日（土）午後 6 時 00 分開演

会場 横浜みなとみらいホール（大ホール）

入場料 S 席 8,700 円 A 席 7,500 円 B 席 6,700 円

C 席 5,700 円 Ys 席（25 歳以下）3,500 円

指揮 下野竜也／ソプラノ 吉原圭子／アルト 小林由佳／テノール 錦織健／バリトン 宮本益光

申込み 日本フィル・サービスセンター 03-5378-5911

●会報編集部から

会員の皆さんの近況をお知らせください。順次会報で紹介します。また、皆さんの企画、参加するイベント情報をお知らせください。この欄に掲載します。

■文化の仲間ギャラリー■

小野寺 晃②

